

News FLASH

工学部の学生と大学院生が 日本原子力学会のフェロー賞を受賞



工学部原子力工学科4年の樺沢さつきさん=写真=と大学院工学研究科応用理学専攻2年の高橋裕

太さんがこのほど、日本原子力学会のフェロー賞をそれぞれ受賞。3月27日に大阪大学で開催された表彰式で、賞状と記念の盾を授与された。樺沢さんは、卒業研究として「管理型放射性廃棄物処分施設からの漏洩核種移行評価モデル解析解の導出」を、高橋さんは修士論文「移行パラメータ自己設定型物質移行解析手法の開発」をまとめたことなどが評価された。樺沢さんは、「東日本大震災の報道を見てから、原子力の課題を解決できる

人間になろうと考えるようになった。この研究がその一端につながればうれしい」と話した。
※学年は当時

大学の施設を生かし科学の魅力を伝える スーパーサイエンス教室を開催

工学部応用化学科の教員と学生が科学の魅力を幼稚園児や小学生に伝える「春休み！ スーパーサイエンス教室」が3月31日に湘南校舎で開催された。昨年度から行われている催しで、140人が参加した。秋山泰伸教授と佐藤正志教授、学生14人が講師役を務め、クエン酸や重曹を使ったオリジナル入浴剤作りをサポートしたほか、液体窒素に花やゴム風船を入れたときの質感の変化を見せる実験を実施。参加者からは、「大学の施設ならではの実験で、とても楽しかった。理科の不思議をもっと知りたい」といった感想が聞かれた。

